



令和7年  
春季特集号

発行 自由民主党さいたま市議会議員団 さいたま市浦和区常盤 6-4-4 TEL 048-829-1810・FAX048-833-6665 ■発行責任者 都築 龍太

令和6年12月定例会 一般質問より 北区 伊藤 仕 議員



家庭環境に関わらず誰もが快適に学習できる環境の整備を

Q. 様々な家庭環境の児童生徒がいる中、図書館のように冷暖房も完備され、無料で快適に勉強できる良好な学習環境をさらに提供するべきだと思うが、現状と対策について伺う。

A. 指摘のとおり、特に図書館は学習に適し、居場所としても安心して利用できる。議員の提案を踏まえ、中央図書館と北図書館のイベントルームを定期テスト前や夏休み期間中に自習するためのスペースとして開放していく。中央図書館では、現状の自習席 120 席から 190 席に増え、北図書館でも 74 席から 112 席に増える。大宮図書館ではレイアウトを工夫し、常時 16 席の増加をする。中央、北図書館については個室での運用となるので、運用方法やルール作りからはじめ、令和 7 年度からはじめていけるようにする。

令和6年9月定例会 代表質問より 桜区 土橋 勇司 議員



すべての市民がスポーツに親しむことができる環境を

Q. 国は 2014 年からスポーツ施策をスポーツ庁に一元化し、全国 47 都道府県中 22 の自治体で、政令指定都市でも 6 市が一元化している。スポーツ施策の一元化を含め、健康者と障がい者の相互理解を深めるインクルーシブなスポーツへの考え方について伺う。

A. 現在、本市はスポーツ部局や福祉部局が連携協力して、インクルーシブスポーツに取り組んでいる。一元化については他都市の組織人員体制等も参考にしながら、今後のスポーツ行政のあり方について研究を進めていきたい。

※インクルーシブスポーツとは、障がいの有無や年齢、性別、国籍などに関わらず、誰もが多様性を認め合い楽しめるスポーツです。ポッチャやウォーキングサッカーなど、様々な競技があります。

ごあいさつ

日頃より自由民主党さいたま市議会議員団並びに各議員に対しご理解、ご指導を賜り心よりお礼申し上げます。

令和 7 年 2 月定例会では会派一丸となり、市民の皆さまから拝聴したご意見をもとに健康福祉や子育て支援、教育、まちづくり、防災、環境、市内経済など多方面にわたる審査に臨みました。引き続き市政に対し、健全な市政・財政運営を基盤とした市民サービスの向上を強く求め、さいたま市の発展に貢献できるよう努めてまいります。



浦和区選出 帆足和之 南区選出 桶本大輔 岩槻区選出 新井森夫 桜区選出 土橋勇司 緑区選出 都築龍太 南区選出 津和野真佐子 南区選出 萩原章弘 浦和区選出 青羽健仁 北区選出 伊藤仕

団長 都築 龍太

令和7年度の事業・施策（一部抜粋）

～会派の代表質問・一般質問・委員会質問や提言内容等が事業に反映されています～

◆スポーツシュレに関する事業

6,822万3千円

（仮称）さいたまスポーツシュレ推進施設の整備に向けて、基本設計の策定が進められます。

・備予定地：埼玉県立衛生研究所跡地

・令和 7 年度スケジュール（予定）

4 月 PFI 等導入可能性調査、基本設計（案）取りまとめ

6 月 基本設計（案）の議会報告

7 月 パブリック・コメントの実施

9 月 基本設計策定

◆(新)新次世代モビリティの推進

8,855万円

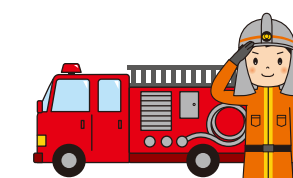
路線バスの自動運転化に向けた実証実験が行われます。



◆(新)消防団支援アプリの導入による消防団の充実強化

218万2千円

消防団活動の負担を軽減し、消防団員がやりがいを持って活動できる環境を構築するため、消防団支援アプリが導入されます。



◆(新)带状疱疹ワクチン接種事業

9,179万9千円

令和 7 年度 4 月に定期接種化する、65 歳以上の方等へのワクチン接種を実施するとともに、定期接種対象外の 50 歳以上 65 歳未満の方に対する本市独自の接種制度が設けられます。



◆(新)「学びの多様化学校」の設置準備

1億2,559万4千円

不登校等児童生徒を対象とした、時間的・空間的な制限を超えた多様な学びができる「学びの多様化学校」の開校に向けた準備が進められます。



定例会の様子(本会議場)

※(新)は新規事業を示しています ※事業内容等についてはさいたま市令和 7 年度予算案より引用

自由民主党さいたま市議会議員団

※ご意見等はお近くの議員又は関連する委員会若しくは会派役職の議員にお聞かせください。

浦和区選出 青羽 健仁

常任委員会  
●保健福祉  
特別委員会  
●市庁舎等整備検討  
●議会改革推進  
●決算

岩槻区選出 新井 森夫

常任委員会  
●まちづくり (副委員長)  
特別委員会  
●地下鉄7号線延伸 (委員長)  
●決算  
●議会運営

北区選出 伊藤 仕

常任委員会  
●文教  
特別委員会  
●大宮駅GGS化構想  
●予算

南区選出 桶本 大輔

常任委員会  
●まちづくり  
特別委員会  
●議会改革推進 (委員長)  
●政治倫理 ●予算  
●議会運営

緑区選出 都築 龍太

常任委員会  
●市民生活  
特別委員会  
●大都市行財政 (委員長)  
●大宮駅GGS化構想

南区選出 津和野 眞佐子

常任委員会  
●総合政策  
特別委員会  
●市庁舎等整備検討  
●公共交通 ●予算  
●議会広報

桜区選出 土橋 勇司

常任委員会  
●総合政策 (委員長)  
特別委員会  
●大都市行財政  
●公共交通

南区選出 萩原 章弘

常任委員会  
●文教  
特別委員会  
●地下鉄7号線延伸  
●決算 (委員長)

浦和区選出 帆足 和之

常任委員会  
●市民生活  
第 21 代  
さいたま市議会議員団  
議会広報  
編集委員会委員長



<http://www.jimin-saitamacity.jp/>

私たちの考えは、ホームページをご覧ください。ご意見等をお待ちしています。

自由民主党さいたま市議会議員団 検索



## 令和7年2月定例会 代表質問より **浦和区** 青羽 健仁 議員



### さいたま市の今後、どう考えるのか

**Q.** 市長は初当選した選挙において「ハコモノ行政はやらない」と訴え、当選されたと認識している。現在、本市は様々な施設整備を行っているが、市民にとって必要なインフラ整備は行っていく必要があると考える。当初の考えは変わったのか。

**A.** 市長選に立候補した時、manifestoに「無駄なハコモノは作らない」と挙げていたことは事実。限られた財源の中で、市民ニーズにしっかり沿ったものを作るべきだという基本的な考え方でやることと、過度に大きなものや不必要なものというよりは、それぞれに合ったものという意味で申し上げていた。現在、必要な投資をしながら、過度な投資や行き過ぎたものではなく、全体のバランスを考えてやっているつもりだ。

**Q.** さいたまクリテリウム・さいたまマラソン・さいたま国際芸術祭の実施による、市民への効果や意義について伺う。

**A.** ツール・ド・フランスの名を冠したさいたまクリテリウムの開催は国内外に向けた「スポーツのまちさいたま」の都市イメージ発信、スポーツ振興や自転車を活用した総合的なまちづくりの推進、地域経済の活性化など多角的な意義がある。10回の開催で自転車施策との連携も深まり、市民の自転車に対する親しみも深まったと考えている。世界の一流選手や競技などを間近で見られ、経済的な効果等を含めた貴重な機会を提供していると考えている。芸術祭についても、市民の芸術に触れる機会など、様々な効果があり、マラソンも、市民スポーツ向上にかなり効果があったと考える。

**Q.** さいたまクリテリウム・さいたまマラソン・さいたま国際芸術祭はいつまでつづけるのか。明確なゴールはいつなのか伺う。

**A.** 予算にも計上しており、市民意識や参加率の向上が図られていることから、どこをゴールとするかは現時点では差し控えていただく。

**青羽:** 例えば今、市民に対し、安心安全なインフラ整備とイベント、どちらを優先したいかと問えば、おそらく大多数は下水道等のインフラ整備を望むのではないだろうか。政策の優先順位を考えていただきたい。決して3つのイベント全てに反対ではないが、ゴールを決めてやめないと、いつまでも続けるわけにいかないのではないかと。市長にはきちんと明言していただきたいと申し添える。

## 令和7年2月定例会 文教委員会議案外質問より **南区** 萩原 章弘 議員



### 市内児童生徒へおいしい給食を

**Q.** 給食は健康を支える重要な役割を果たしていると認識しているが、近年、食生活が多様化し栄養不足や偏食が懸念されている。学校は、何に基づいて献立を作成しているのか。また、万が一栄養が足りていない児童生徒がいた場合の対応を伺う。

**A.** 献立作成は、各学校で栄養教諭や学校栄養職員が学校給食摂取基準等に基づき栄養量を踏まえ地場産物や旬の食材を取り入れながら提供している。献立作成には各学校で開催する学校給食運営協議会等において、良質で衛生的な食品の選定や喫食の状況、献立充実やアレルギー対応等について管理職、給食主任、保護者、委託業者等の意見を踏まえ作成している。栄養に関しては、望ましい栄養量の献立を調理し、均等に配膳している。偏食等の食に関する課題を抱えている児童生徒については、家庭と連携をしながら、個に応じた指導を継続的に行っている。

## 令和7年2月定例会 総合政策委員会議案外質問より **南区** 津和野 眞佐子 議員



### 市民の安心・安全のため、近隣自治体や民間団体等との更なる連携及び情報発信を

**Q.** 近隣自治体で災害や事故等が起きた際、本市にも影響が及ぶことが考えられる。市民への支援を迅速に把握、適切に伝える仕組みがなければ、支援を十分に活用できない。民間団体や関連団体との情報共有、連携強化、支援活用について見解を伺う。

**A.** 周知が行き届かず、必要な支援を活用できないことは課題と認識している。災害時における民間団体との情報共有や連携は、災害時応急期や復旧期の活動において大変重要なことだと考える。被害の拡大防止や市民の安心安全につながるため、被災者の生活情報の収集もしっかり行い、確実に伝達していけるよう民間団体も含めた防災関係機関との顔の見える関係性の構築などを検討してまいりたい。

## 令和7年2月定例会 代表質問より **岩槻区** 新井 森夫 議員



### さいたま市の未来を見据えたまちづくりを

**Q.** 本市の転入超過数は7,159人と政令指定都市の中で見ると残念ながら1位ではなかった。さいたま市は総合振興計画等で将来の都市構造を構成し都市機能の集積を促進する拠点として、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区の2都心及び日進・宮原地区、武蔵浦和地区、美園地区、岩槻駅周辺地区の4副都心と位置づけているが、未来に向けたまちづくりを示すための先進的な用途地域変更など、それぞれへの具体的な施策を伺う。

**A.** 本市は2035年まで人口増加が続くとともに、人口減少局面を迎えてから15年経った2050年時点においても、現在と同等の人口規模が維持される見込みとなっている。新大宮上尾道路の整備、核都市広域幹線道路の検討、地下鉄7号線の延伸など、広域的な都市基盤の更なる充実が期待される。一方、将来的には人口減少局面が懸念される。本市では将来的な人口減少を見据え、議員から指摘のあった2都心4副都心、コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を目指し、都市基盤の更なる充実を踏まえたまちづくりを目指す。また、都心・副都心などにおいて、拠点機能の向上を図ることは大変重要と認識している。現在検討中の都市計画のアクションプラン「立地適正化計画」で、都市機能誘導を図る区域と具体的な施設・施策等を検討する。また、都市基盤整備の進捗を踏まえ、用途地域の変更などの取組みについても検討を進める。

### 市民を守る取り組みを

**Q.** 消防局では、さいたま市消防力整備計画に基づいて事業を行っているが、近年、計画策定時に想定していない変化が起きている。市民の生命・身体・財産を守るためには、今ある計画を前倒しして行っていく必要があると考えるが、市の見解は。

**A.** さいたま市消防力整備計画は、必要となる施設や消防車両、人員等をハード・ソフトの両面から計画的に整備するものである。計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とし、消防車両及び人員の整備については、5年間で必要に応じて見直しを図る。計画の進捗状況については、消防署所の整備として令和3年度に中央消防署の移転を行い、現在は（仮称）岩槻消防署城南地区出張所の建設工事に着手している。また、消防車両及び人員の整備については、北消防署植竹出張所に救急隊1隊、緑消防署美園出張所に消防隊1隊を増隊するなど、消防力の体制強化を図っている。今後は、消防署所の整備として、南消防署及び岩槻消防署上野出張所、大規模訓練施設の整備等を計画しており、消防車両及び人員の整備は、令和8年度以降の計画の見直しを図っている。議員指摘の想定し得ない事象に対する計画の前倒しについては、定める期間で、災害形態における特異性や特殊性、有効性などの検証を行い、消防署所の施設面については建物の老朽化などの状況を踏まえ、計画のバランスや財政負担の平準化等を鑑み適切に対応していきたい。引き続き、身近に発生する火災や、ひっ迫する救急需要への対応はもとより、大規模災害に対しても、専門性を持つ消防局、消防署と地域防災力の中核を担う消防団と共に万全を期することで、135万市民の安全安心を確保してまいりたい。

## 令和6年12月定例会 一般質問より **南区** 桶本 大輔 議員



### 老朽化に伴う南消防署の建替え及び移転の検討を

**Q.** 南消防署の移転は、南区の土地柄もあり、近隣に適地や建て替える施設、土地、代替地の確保が難しいということは理解するが、老朽化が進んでおり、首都直下地震などが危惧される中で、早急な対応が必要だと考える。現在の建て替えまたは移転の進捗状況について伺う。

**A.** 南消防署については、さいたま市消防力整備計画において令和12年度までに現在地での建て替えを基本とし、近隣に適地が見つかった場合には移転も考慮することとしている。建て替えまたは移転の進捗状況については調査を進めてきたが、現在まで近隣適地は見つかっていない。また、建て替えの場合における代替地については、旧南浦和浄水場の一部を令和11年度から借用できることを、水道局から承認された。引き続き近隣適地についての調査継続と並行して、現在地での建て替えの事業着手についても、関係部局と早期に調整を図ってまいりたい。



<http://www.jimin-saitamacity.jp/>

私たちの考えは、ホームページをご覧ください。ご意見等をお待ちしています。

自由民主党さいたま市議会議員団

検索